

第3回三次市学校給食調理場整備計画策定委員会視察後の感想のとりまとめ

- 1 開催日時 令和元年11月29日(金) 8時30分～17時00分
- 行程 8時30分 三次まちづくりセンター 出発
- 11時10分 下松市立小学校給食センター 到着
- 11時20分 施設概要の説明及び施設見学
- 12時40分 提供されている給食を喫食(調理から1.5H～2.0H経過)
※試食給食費@255円/食は各自負担
- 13時10分 質疑応答
- 14時30分 下松市立小学校給食センター 出発
- 16時50分 三次まちづくりセンター 到着

2 各委員からの感想

視察後車中で委員長が各委員に感想を求めたもの

- ◇ 「ただ4000食の給食を作っている場所」というよりは、下松市がしっかりとしたコンセプトを持ち、市がしっかり運営しているというイメージであった。
- ◇ 和食中心の献立、地場産物の活用、食育指導、アレルギー対応などソフト面についても対応されているが、円滑な運営まで2・3年はかかることもわかった。
- ◇ 地域との繋がり強い単独調理場(小規模)の良さは十分理解しているが、職員体制・衛生管理・アレルギー対応等の問題解消のため一定規模の大きさの施設が必要になってくると感じていた。
- ◇ 4000食規模の調理場には不安材料も多いと思っていたが、本日の視察・説明を聞き、不安は概ね解消できた。
- ◇ 地産地消については、こういったシステムで行えば、現在の地産地消率の維持向上が図れるかは今後の課題だと思う。
- ◇ 現在三次市は校長が場長となっており、老朽化した調理場や配送中の事故など心配事が絶えないのではないかと思う。
- ◇ 三次市の老朽化した調理場では、調理員の皆さんが苦勞して調理しているように認識しているが、本日視察の施設では、設備も含め施設も新しく、効率よく働けるため、調理員の方の負担の軽減につながっている。
- ◇ 給食費の徴収についても、公会計への切り替えのチャンスではないかと思った。
- ◇ 三次市内1箇所ではなく、周辺部の今使える施設は使って、将来使えなくなったら吸収出来るような施設を複数箇所作ることも考えたほうが良いのではないか。
- ◇ 初日に市の基本方針が4000食という事で説明を受け、本日の視察も4000食規模の施設と4000食ありきで進んでいるように感じるが、三次市と下松市では、配送校の数や運搬距離などが異なる。下松市は小学校と中学校と分かれた給食センターとなっている。また、防災のことを考えると4000食というのは考える必要があると思う。
- ◇ 地産地消、アレルギーについても複数に分けたほうが細やかに、小回りが利くのではない

かと思う。

- ◇ 食数規模のみでなく、どことどこを一か所にまとめたらどうなるのかなど、複数の案を聞いてみたい。
- ◇ 三次市は現在場長や学校に任せきりになっている部分があると思うが、行政サイドがもっと方向性を示していけばと感じた。
- ◇ 安全面、労働環境等を見るに、ぜひとも建築を進めていただきたい。
- ◇ 調理場の建築費や機器の更新などでこれからも必要な経費はかかるが、その為に他の事業が出来ない等の問題が起こらない様、費用面を考えないといけないと思う。
- ◇ 4000食規模とあるが、児童・生徒数が減っていく中で、4000食規模が適当かどうかその部分の再検討が必要と感じる。
- ◇ 食材供給に関し、安定した調達や地産地消の取り組みについては、考えて実施していく必要がある。
- ◇ 地産地消の取り組みとして、地元法人・農家をまとめていってほしい。
- ◇ ある程度のキャパシティを持った、安全性の高い施設を建設していくことが必要ではないかと思っており、現在の施設を直していくことには疑問を感じる。
- ◇ 地産地消や、アレルギー対策等の課題はあるが、施設をまとめることによるスケールメリット等、良いところをもっとアピールした方が良い。
- ◇ 予算的なこと、今後の人口推移などを考えると、1箇所集中させることが良いと考える。
- ◇ 「三次市の子供たちのための学校給食であるべきもの」の認識のもと、意見のとりまとめを行ってほしい。
- ◇ それぞれの立場から意見を述べているので、それをしっかりと受け止め、今後において反映していただきたい。

※マスコミ等への対応について

- ・策定委員会で全てが決まるような報道をされているが、委員会の目的・開催の意味をきちんと説明してほしい。